

令和6年度第2回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議（B分科会）
議事概要

開催日時	令和6年10月8日（火）午前10時00分～12時50分
開催場所	我孫子市役所 分館 大会議室
出席者	委員：林委員長、小川委員、加藤委員 事務局（企画政策課）：吉岡課長、河合課長補佐、鈴木主任、 西田主任、岡村主任
公開／非公開	公開
傍聴人	1人

【議題】 令和5年度施策評価について

◎基本目標4 あびこにずっと安心して住み続けられるまちづくり

○施策名称：2-3 高齢者福祉の推進

<発言要旨>

委員：きらめきデイサービスの開設場所の一覧を示していただいたが、これで市内の各地区がカバーされていて、未設置のところはないという認識でよいか。

事務局：設置箇所について具体的な距離の基準はないものの、担当課としては全体を網羅できていると考えている。

委員：最近年齢が高い人でも、民間のスポーツクラブに通う人が増えている印象を受ける。きらめきデイサービスは日中に開催されるため、夜間など、自分の都合に合わせてスポーツクラブに通っている人もいると思われる。それを踏まえると、このきらめきデイサービスの利用者数という指標が未達成であることについて、必要な人に施策が行き届いていないのか、あるいは自身で対策をとっているのかの判断がつかないため、評価が難しい。

事務局：市内にスポーツクラブが増えていることは認識しているが、通っている人の実態は把握できていないと思われる。また、委員のおっしゃるとおり、各きらめきデイサービスは日中の開催が多いため、住む地域の開催日程が自身のライフスタイルと合わない場合は参加が困難なことも課題といえる。

委員：目標値には達していないものの、前年に比べると利用者が増加していることを評価したい。

<施策の評価>

「良好」とした。

○施策名称：7-3 スポーツの振興

<発言要旨>

委員：みんなのスポーツフェスタやチャレンジスポーツフェスタについて、事業の目的は市民がスポーツに親しむ機会を提供し、楽しむことを通じてスポーツの振興を図ることという認識でよろしいか。

事務局：委員の仰るとおり、パラスポーツやニュースポーツも含めて、市民の方々によりスポーツに関心を持っていただくという点に重きを置いており、お子さんとその保護者が参加できるようなものも用意をしながら、参加を呼びかけている。

委員：市はLINEを積極的に活用されているが、イベントにおけるLINE申請の導入後、申込状況に変化はあるのか。

事務局：イベント以外にも様々な申請手続きでLINE申請を導入しており、導入前との比較は持ち合わせていないが、市民からは好評の声を多くいただいており、今後も拡大していく予定。

委員：先程の施策と同じような意見になるが、コロナの影響で参加者数が減少したものもあるが、未達成の指標も工夫しているのがうかがえる。目標を達成していない場合も、前年に比べると増えている指標もあるので、概ね良好が妥当ではないか。

委員：引き続きイベント参加者が増えるよう工夫をしていただき、来年度は状況を見て、取組の効果を検証しながら進めていってほしい。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

○施策名称：1-1 防災・減災対策の推進

<発言要旨>

委員：自主防災組織で高齢化による担い手不足の状況が見られるということだが、消防団においてはいかがか。

事務局：消防団においても担い手不足が課題となっている。所管課では現在の消防団の数や配置などが適正なのか、限られた人数の中でどのように地域全体をカバーするべきか検討を進めている。

<施策の評価>

「良好」とした。

○施策名称：1－2 浸水対策の推進

<発言要旨>

委員：単年度では目標に達していないが、事業の全体スケジュールを考慮すると、令和9年度には事業が完了し、目標も達成できる見込みで進行管理が行われている。

<施策の評価>

「良好」とした。

○施策名称：1－3 防犯対策の推進

<発言要旨>

事務局：刑法犯認知件数は前年に比べ100件増加してしまったが、県内全体で犯罪発生件数が増加しており、我孫子市の増加率は県全体の増加率を下回っている。

委員：市の活動内容と、令和6年度特に増加した侵入盗、自転車窃盗の増加とは関連があるのか、取組の方向性がずれているということはないか把握しているか。

事務局：明確な関連は確認できていないが、警察からの犯罪発生状況の情報は協議会等で共有しているので、それを受けて現状の取組以外にどのようなアプローチが可能なかは検討の余地があると思われる。

委員：県内全体で見れば我孫子市内の件数は抑えられているということなので、市の取組が功を奏しているとも捉えられる。どう対策するかは個人に委ねられると思うが、情報提供は大事であるので、引き続き組織的に取り組んでいただきたい。

委員：パトロールの人数は減っているが、報告回数は67回から73回に増えており、こまめに見回っていることが犯罪の防止に繋がっていくと思うので、この状況を維持していくことが重要であると考え。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

○施策名称：1－4 消防力の強化

<発言要旨>

委員：年間の出動件数はどのような推移をたどっているか。

事務局：火災は年 20 回程度を推移しているが、救急については平成 26 年が 5,902 件であったのに対し、令和 3 年は 6,325 件、令和 4 年は 7,503 件、令和 5 年は 7,733 件と近年大きく増加している。

委員：救急講習の受講者数は、新型コロナの影響を受けて増減しているのか。

事務局：コロナ禍においては参加人数の制限などもあり減少したものと考えられ、制限の緩和に伴い増加してきてはいるが、コロナ禍前の水準までは戻っていない。

委員：指標の達成状況だけ見れば未達成が多いものの、一つひとつの状況を見れば、全国的に災害が増えている状況であったり、火災で亡くなる方は当然 0 であるべきといった指標の設定自体が大変厳しいものになっていたりするので、一定の評価はすべきと考える。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

○施策名称：1－5 交通安全の推進

<発言要旨>

委員：施策の目的に「安全な交通環境の整備」を進めるとしているが、それに対する取組が見えてこない。

事務局：横断歩道や信号機の設置は基本的に警察の対応ではあるが、市民から市へ危険箇所の報告や要望をいただくこともあるため、警察と協議して対応を依頼したり、市道のカーブミラーの設置などは市で行うこともある。

<施策の評価>

「良好」とした。

○施策名称：5－3 公共交通の利便性向上

<発言要旨>

委員：あびバス、ふれあいバスの利用状況を見ると、新型コロナの影響による減少やそこからの回復度合いがバスルートによって違いが見られるが、傾向の分析や対策を考えているか。

事務局：資料として持ち合わせていないため、ルート別の傾向分析や対策の視点を所管課へ共有する。

事務局：駅に向かうルートは通勤に利用する人が多いと考えられ、新型コロナによる制限が緩和して出勤する人が増えてきたことで増加の傾向が顕著に見られるのではないかと思う。

委員：課長コメントにある「公共交通を維持」について、ここでの対象や内容は何を指しているのか。

事務局：施策の主管課である交通政策課ではバス・タクシーを念頭に置いており、施策の目的として市民の利便性確保を目指すことは当然ながら、一方で交通事業者においては運転手の確保が厳しい状況や、運営上採算がとれなければ路線の廃止に繋がってしまう状況にあることから、事業者の事業継続に向けた支援も必要であり、その一体的な取組が必要と考えている。

委員：電車の乗り入れ本数など、第三者に対して働きかけを継続すべき内容もあることから良好とは言い難いが、バスについてはコロナ禍の減少からの回復基調が落ち着いてきた中で大幅な利用者増は難しいとも考えられるため、概ね良好が妥当ではないか。

委員：引き続き要望活動を継続しつつ、市民の日々の交通手段の確保にかかる対策も考えていただきたい。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

○施策名称：5－4 安全で快適な道路の整備

<発言要旨>

委員：アダプトプログラムの実施箇所数が6箇所ということだが、これは増やせる余地があるのか。

事務局：指標の補足として、現在アダプトプログラムに21団体登録されており、基本的には各団体1箇所を整備してくれているが、このうち駅前広場にかかる箇所だけを指標としている。団体数について近年増減はないと把握している。

委員：対象が市の管理部分ということなので、市による働きかけがない限り箇所は増加しないのではないかと思うが、何か行っているのか。また駅前に限ったとしてこれ以上増えることがあるのか。可能なら増えた方が良いとは思いますが、指標の設定上難しいのではないか。

事務局：市としてはこの21団体に甘んじることなく、もっと周知して増やしていくことが目標であると捉えている。たしかに駅前広場ということで場所は限られるが、同じ箇所でも共同で管理するケースが出てきたときには、団体数の実績としてカウントすることになると思われる。

<指標の評価>

「概ね良好」とした。

○施策名称：6－3 生活環境の保全

<発言要旨>

委員：地下水の環境基準達成率について、観測場所が年によって違うのか。

事務局：この調査は危険な所がないか探すことを目的としているため、毎年同じ場所ではなく観測場所をローテーションさせている。

委員：市としては調査により未然に危険な箇所が生じることを防いでいるということなので、自然由来の成分により環境基準の達成率が下がったという理由で施策の評価が低くなるのはいかがかと思う。

事務局：指標の設定自体に問題があるものと認識している。

委員：騒音対策についても、市としては騒音が懸念される箇所に防音壁を設置するなどの対策をとっているとのことだが、そういった対応によりこの指標の数値が改善するものではないならば、指標の設定が適切ではないのではないのか。

委員：今後もモニタリングを継続していただき、適宜必要な対策を行っていただくようお願いしたい。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

○施策名称：効率的・効果的な行財政運営の推進

<発言要旨>

委員：十分な財源確保について機会を捉えて国等へ要望していただきつつ、必要な事業を必要な形で実施しながら、財政の健全化も目指していただきたい。

委員：中期財政計画を見ると、今後もより厳しい状況が続くということが見てとれることから、施策として肯定的な評価は難しい。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

○施策名称：7-1 生涯学習の推進

<意見の要旨>

委員：湖北地区公民館も自習での利用ができるよう進めてはどうか。

事務局：担当課へ共有し、すぐに実施できるものから対応していく。

委員：各施設利用者が減少しているが、施設の休館が重なったという事情も考慮すると全体として落ち込んでいるとは言えず、一層の努力を期待したい。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

○施策名称：市民とともにつくる協働によるまちづくりの推進

<意見要旨>

委員：市民活動ステーションの印刷機の利用が減ったことは、LINE の活用などが進んだ結果とも言えるので危惧することではないと感じる。また近隣センターの稼働率も未達成ではあるが、エアコンの故障による利用の停止などで仕方ない面もある。ただ、自治会・町内会の加入率については、加入世帯数が変わらないということは同じメンバーでずっと維持していて、アラウンド80がいなくなったら崩壊するということも多いと推測されるので、今後どのように維持していくかは難しい問題である。

委員：各指標、社会全体のポストコロナの状況下の数字の動きであり、市も様々な工夫をしていることが見て取れる。人口減少・少子化が進んでいく中で、地域のコミュニティを支える、基礎となる部分については継続的に努力をしていただきたい。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

【その他事務局連絡事項】

- ・本日の会議でB分科会による施策評価はすべて完了した。後日、施策評価結果をとりまとめ共有させていただく。

以上